

# 変形性膝関節症の治療について

整形外科医長 村上 友彦医師

この病気は膝の痛みや変形が強くなると手術治療が必要になります。城山病院では関節鏡下手術や人工関節置換術(全置換・部分置換)、脛や大腿骨の骨を切つて膝を温存する骨切り術などを行っています。中でも人工関節の部分置換術と骨切り術は、実施している医療機関が少なく、患者様に喜ばれています。膝・股関節が専門の村上先生に話を聞きました。



医学博士  
日本整形外科学会  
日本整形外科学会  
日本整形外科学会  
難病指定医  
整形外科専門医  
認定スポーツ医  
認定リウマチ

## はじめに

変形性膝関節症は半月板や靭帯の損傷、加齢により軟骨の弾性が失われて膝の曲げ伸ばしが不自由になる病気です。立ち上がる時に膝に痛みを感じるようになったら、この病気の始まりの可能性があります。軽度であれば、かかりつけ医での投薬やリハビリで対処できますが、当科では軽度から重度までの患者様の年齢や生活形態に合わせた治療を選択でき、その方の骨格に沿ったオーダーメイドな手術を行っています。また、当院には脳・脊髄・神経とセンター、心臓血管センターがあり、複雑な基礎疾患をお持ちの方にも安心して治療を受けて頂けます。では、それぞれの治療法についてお話しします。

## 関節鏡下手術

身体に負担の少ない手術です。膝を1cm程2〜3ヵ所切開して内視鏡を入れ、内部を観察しながら変形した半月板修復や靭帯再建を行います。痛み成分を排出する老

廃物を除去することで痛みを解消することができ、軽度の患者様にお勧めしますが、効果の持続性は短いため、病気が進行した場合には適さない治療法です。

## 人工関節置換術 (全置換・部分置換)

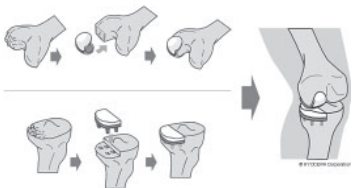
変形した関節の表面を金属などでできた人工部品で置き換える手術です。膝関節全体を人工物に置き換える全置換術が広く一般的に行われていますが、術後正座ができないなど、動きの制限があります。それに対して、膝関節を約60%温存し、悪い部分だけを人工部品に置き換える部分置換術は術後の制限が少なく、また、傷口も小さく、復帰も早くなり、高齢者の方にお勧めします。当院では術中ナビゲーションシステムを用いて、再現性の高

い手術を行っています。

## 骨切り術

膝関節を温存し、手術後、動きの制限が少なく、正座もでき、またスポーツや肉體労働へ復帰も可能なのがこの治療です。O脚変形を改善するために脛骨の内側から外に向かって骨を切つて人工骨を入れ、金属で固定して矯正する高位脛骨骨切り術、X脚変形を改善する大腿骨骨切り術、その両方を組み合わせたものなどを行います。人工骨と固定材料(プレートやボルト)の品質が大幅に改良されて、術後翌日から歩行を開始し、2週間後杖歩行、3週間後には独歩で退院できます。人工骨は自分の骨に置換し、軟骨再生も促すため、再生治療とも言われます。

人工関節置換術の例



高位脛骨骨切り術

